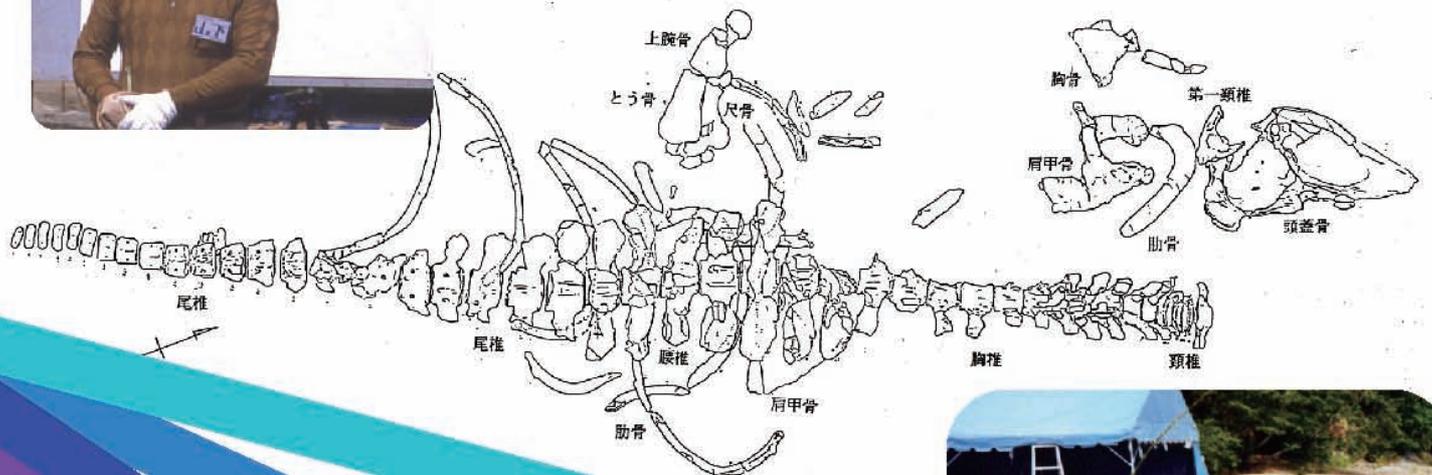


発見30周年特別展 ブックレット

# ヌマタネズミイルカ

発見、発掘、研究、レプリカ作製





## 化石発見！



1985年6月28日、水位の下がった幌新太刀別川（ほろにたちべつがわ：写真右上）でヌマタネズミイルカの化石が山下茂教諭（当時、秩父別中学校）によって発見されました。3つの背骨が並んだだけでしたが、経験豊富な山下教諭は重大さを感じ取ったに違いありません。化石の専門家、木村方一、古沢仁両氏に連絡が入りました。掘り出してみると全身が埋まっていることが分かりました（表紙、上の図）。緊急発掘にGOサインがでました。



周辺を掘ると、7個の背骨が見えるようになった



発掘当日の古沢学芸員

## インタビュー 緊急発掘が決まる時



古沢仁博士（現・札幌市博物館活動センター、  
元・沼田町自然史研究室、  
当時・滝川市郷土館）

当時、私は滝川市郷土館におり、金平社会教育係長（現・町長）から、沼田町内から化石がでており、見てほしいとの連絡を受け、即刻迎えに来ていただきました。連続した脊柱の頭尾方向が河床より下に埋没していたことから、全身が出ると推定しました。大変貴重なものであるとお話ししたところ、金平町長と村上教育長（当時）が発掘すると判断されました。ヌマタネズミイルカの発見・発掘は発見者山下教諭の沼田への愛着と、金平町長のフットワークと判断によって成立したと思います。

## 発見者 山下教諭の貢献

ヌマタネズミイルカの発見者、山下教諭は高校生のころから化石採集をはじめました。教諭になってからは、生徒を連れて化石産地に通いました。ヌマタネズミイルカを発見したのも課外実習の最中で、地元の化石を教材化することに情熱を注ぎました。

温厚な人となりで、長年一緒に働いた同僚も、怒ったところを見たことがありませんでした。酒は飲まず、辛いモノが好きで特に担々麺を好みました。山下教諭の残した資料は着色されていることが多く、どれも丁寧に書かれています。

山下教諭は退職後、沼田町化石館で指導員となりますが、残念なことに2003年、64歳で亡くなってしまいました。発見し収蔵した化石130点。執筆した研究論文・概説6編、著書1冊。山下教諭は沼田町の化石研究において非常に大きな存在でした。



ヌマタネズミイルカ発掘当日

### 研究論文・概説

木村方一，山下茂，上田重吉，雁沢好博，高久宏一 1987. 北海道雨竜郡沼田町の下部鮮新統産クジラ化石．松井愈教授記念論文集：27-57.

山下茂 1989. 沼田町の古生物について．郷土と科学，100・101:17-21.

古沢仁，沼田化石研究会 1990. 雨竜郡沼田町におけるタキカワカイギュウの発見とその意義．地球科学，44(4):224-228.

山下茂，木村方一 1990. 北海道沼田町における前期鮮新世のアシカ科化石の発見．地球科学，44(2):53-60b.

古沢仁，前田寿嗣，山下茂，嵯峨山積，五十嵐八枝子，木村方一 1993. 北海道沼田町産海生哺乳類化石群の年代と古環境．地球科学，47(2):133-145.

木村方一，鈴木茂，山下茂 1993. 北海道沼田町の上白亜系からモササウルス類と長頸竜類化石の発見．穂別町立博物館研究報告，9:29-36.

木村方一，前田寿嗣，山下茂，古沢仁 1994. 北海道北空知，鮮新統の大型海生哺乳類化石．日本地質学会第101年学術大会見学旅行案内書：35-42.

### 著書

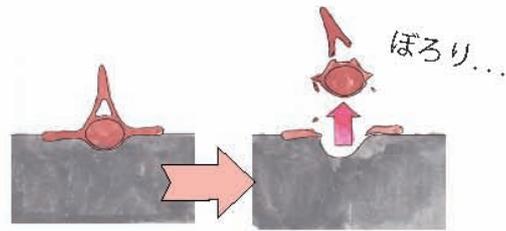
山下茂 2000. 沼田産古生物物語 時の仲間達．

山下教諭が愛用していたアンモナイトのルーブタイ



# 発掘は慎重に

表面が掘り起こされたヌマタネズミルカは周囲を深く掘り、溶いた石膏を表面に塗り固め、持ち上げる時の破損を減らします。



あわてて掘り起こすと...  
あっさり壊れてしまいます



まず、化石の周辺を掘ります      化石の底側も掘りすすめて      壊れないように石膏で固めてから  
そっと持ち上げると... !



## インタビュー これは全部出そう

木村方一名誉館長（沼田町化石館・北海道教育大学  
名誉教授、当時、道教大 助教授）

ヌマタネズミルカの発掘現場で鑑定

私がヌマタネズミルカの発掘現場に行ったとき、すでに体制ができていて、テントも立っていました。化石を見ると尻尾がいくつか出ており、崩れておらず綺麗に並んでいました。これは全部でるぞと思いました。化石発掘はいい加減ではいけません。千枚通しと炉ぼうきを使って慎重に行い、予想通り全身が出て来て感動しました。





## インタビュー 発掘現場に泊まった

岡本佳彦校長（当時、沼田小学校教諭、理科サークル  
現在、深川中学校長）

### ヌマタネズミイルカの発掘に参加

発掘当日は強い日差しの中、歯や骨がでてきて歓声をあげながら化石を掘り、午後には全体像がはっきりとしました。正方形の縄張りをしてからスケッチをはじめました。スケッチは長くかかり夜7時を過ぎても終わらず、翌朝に持ち越しました。

新聞でも大きく取り上げられていたので、いたずらを警戒してヌマタネズミイルカの番をしました。金平町長（当時、係長）とテントを張り、翌朝、差し入れのおむすびの欠片を曲げたクギに付けて釣りをしました。ハりにカエシはついていませんでしたが、ウグイが釣れました（写真：表紙中段）。

発掘中は新種かどうか分かっていませんでしたが、「大発見だね」と、今後の研究がどのように進んで行くか話をしました。



産状スケッチの最中の岡本教諭。  
その頃、別の発見が。



ヌマタネズミイルカに関わった方々。



## インタビュー 手があいたので大発見

田中三郎指導員（沼田町化石館、  
当時・砂川南高校教諭）

発掘に合流し、しばらくするとスケッチが始まりました（写真左）。そうすると手があいたので、河原を散策しはじめました。ヌマタネズミイルカから30メートルほど離れているところで骨らしい物を見つけ、柔らかい地層だったのでその場で掘りました。後にクジラの頭だということが分かりました。

## 研究がはじまった

研究では沼田産イルカ化石がネズミイルカの仲間であること、幌新太刀別川から産出し、生息していたのはおよそ500万年前であること、どのような形か、それらのことからどのような特徴があるか、などが調べられました。

調べられたことは一島啓人博士（当時・オタゴ大学博士課程）と木村方一名誉館長（当館）が執筆し、「査読」と呼ばれる原稿チェックを無事通過して、古生物学の世界で最も重要な学術誌の一つ Journal of Vertebrate Paleontology（古脊椎動物学ジャーナル）から出版されました。その論文でいままで和名しか無かったヌマタネズミイルカは、2000年に *Numataphocoena yamashitai* という学名が付けられ、正式に世界に認められました。

研究に前後してヌマタネズミイルカのレプリカ骨格が作られ、展示される様になりました。



### インタビュー 良い研究ができそう

木村方一名誉館長  
（沼田町化石館）

いままで沼田町からは大型クジラの下顎や頸椎などが多かったのですが、ヌマタネズミイルカは丸ごと出ており、小型のイルカで、いままでと大きく違っていました。これは良い研究ができると思いました。



## インタビュー 研究は人と標本との出会い

一島啓人博士（現・福井県立恐竜博物館、  
当時・オタゴ大学博士課程）  
ヌマタネズミイルカを木村名誉館長と命名

私をはじめて標本を見たのは化石研究室の一階で、アクリルケース内に収められていました。木村先生から「君これやってみないか？」との打診が標本を目の前にしたその場であって、やってみますと答えた気がします。たしか1992年だったと思います。

研究はまず、鯨類全体の資料に目を通すのと並行して、ネズミイルカ科の勉強をはじめました。1993年にロサンゼルスとサンディエゴに行き、Piscolithax という比較標本を観察しました。また、国内では国立科学博物館で現生のネズミイルカ科の骨格をできるだけ見ました。様々な研究施設で標本を観察しただけでなく、多くの研究者とも出会い、それ以来のお付き合いとなります。標本もそうですが、今考えると、人との出会いがその後の研究人生において重要なことに気づきます。

研究結果は修士論文としてまとめました。その後、ニュージーランドに留学している最中、学術論文として出版するための編集作業に入りました。当時と今とでは作業が異なります。図版は今のようデジタルカメラデータを取り込んでPhotoshopで加工などということはできず、地道に現像して、それを切り取って台紙に張るという作業が必要でした。

長い期間かかって仕上げたものなので、論文として出版されたときは安堵の気持ちでいっぱいでした。沼田町と山下先生に対しても、出版というある意味研究の最終形で責任を果たせたので、胸を撫で下ろしたものです。

ヌマタネズミイルカについてはまだ研究の余地はあると思います。将来的には頭骨を含む追加標本が見つければ最高ですね。ご支援くださった沼田町の皆様となにより研究の機会を与えてくださった木村先生に感謝申し上げます。



インタビュー

## 骨格模型作り

辻優子さん（元・沼田町化石館）  
ヌマタネズミイルカの骨格模型作製

1986年10月から、6人でレプリカを作りました。そもそも、レプリカってなんだろう、と思って働きはじめました。レプリカは実物の化石を樹脂に置き換えたもので、全く同じ形のコピーです。まず、シリコン型を作りました。滝川から西村先生がいらして、作り方を伝授して頂きました。西村先生はタキカワカイギュウのレプリカ作りを指導された経験があり、その道のエキスパートでした。最初のレプリカができたとき「本当に本物と同じ形で感動しました」。

レプリカが一式揃ったとき「組み立てよう」と古沢先生が言いましたが、それまで組み立てるとは想像もしませんでした（組み上がった骨格は表紙中段を参照）。

最初は素人だったレプリカーズが、熟練した技能集団に成長していきました。他所の博物館から外注が入るようになって、自信を持つ様になりました。沼田のレプリカーズはその創設以来、技術が継承され29年間ずっと活動を継続しています。



技術は滝川の西村教諭から伝授され  
現在でも沼田で継承されている



実力と自信をつけ、外部の博物館  
からも注文がくる技能集団となる

このブックレットは2015年特別展「ヌマタネズミイルカ 発見と研究とこれから」に際して作成されました。インタビューに快く応じてくださった皆さん、ヌマタネズミイルカの復元画を作製してくださった新村龍也学芸員（足寄動物化石博物館）に感謝申し上げます。

沼田町化石館  
〒078-2202  
北海道雨竜郡沼田町  
南一条2丁目7-49  
執筆 学芸員 田中嘉寛  
25 Jul 2015